
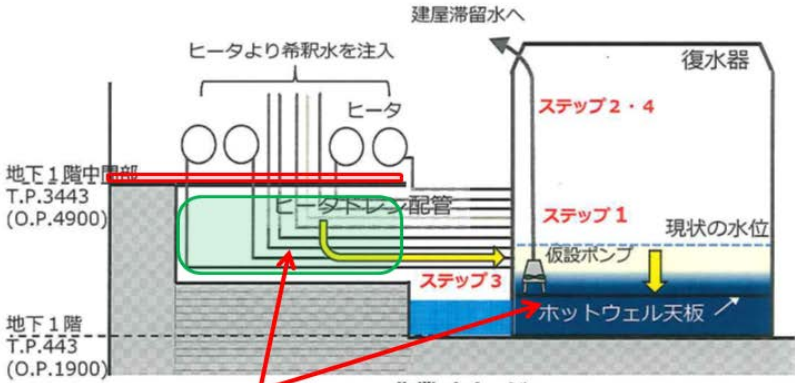


被ばく低減対策好事例集

場所		分類		番号	28-09
原子炉建屋内	RB	TB	4		
タービン建屋内	TB			2	距離
R ZONE	R			3	遮へい
Y ZONE	Y			4	線源の除去
G ZONE	G			5	遠隔、ロボット化
その他()	Z			6	汚染拡大防止
				7	その他
内容		ヒータドレン (HD) 配管フラッシング (線源の除去)			
作業部位		1号機 タービン建屋 1階			
概略		線源となっているヒータドレン (HD) 配管を洗浄水によりフラッシングし、線源除去を実施した。			
評価 (定性) 定量	効果		対策前	対策後	
		被ばく線量(mSv)	※10,079	※2,984	
		人工数(人日)	--	--	
事例詳細		※28-08~10合計の値			
対策前		1号機復水器(ヒータドレン配管含む)は、震災直後に貯留した滞留水により高線量線源であることが確認され、作業員への被ばく寄与が大きいことが確認された。			
対策内容		復水器内の水抜き及びヒータドレン配管等内部水の抜き取りや希釈を実施。			
		ステップ1: 仮設ポンプを復水器内に設置。			
		ステップ2: 復水器内滞留水の一部水抜きを実施。			
		ステップ3: 希釈水をヒータドレン配管から注入。			
		ステップ4: 再度復水器内の水抜きを実施。			
		ステップ5: ステップ3、4を数回実施。			
 <p>14~61mSv/h ※トリチウム上部</p> <p>1号機タービン建屋平面図</p>		 <p>建屋滞留水へ</p> <p>ヒータより希釈水を注入</p> <p>ヒータ</p> <p>ヒータドレン配管</p> <p>復水器</p> <p>ステップ2・4</p> <p>ステップ1 現状の水位</p> <p>仮設ポンプ</p> <p>ホットウェル天板</p> <p>地下1階中間部 T.P.3443 (O.P.4900)</p> <p>地下1階 T.P.443 (O.P.1900)</p> <p>作業イメージ (1号機タービン建屋断面図)</p> <p>線源</p>			
<p><注意点> 線源位置の確認とフラッシングに使用した水の処理先を十分に考慮することが大切です。(処理先が高線量率になる可能性があります。)</p>					